

1 梨の生育状況

梨の果実肥大は、6月20日の無作為調査の結果では、「幸水」の横径が35.6mmと前年、平年並みとなっています(前年値35.0mm 平年値35.3mm)。

黒星病の発生は、昨年同時期と比較して「幸水」などでは同程度となっていますが、現在梅雨時期であること、これから「幸水」の果実に感染しやすい時期となること等から、今後の発生防止対策の実施が極めて肝要です。

(詳細は下記参照)。

虫害は、ハダニ類の発生時期が平年に比べ遅い傾向です。

2 黒星病の発生状況

①果実、葉等の発病状況

6月15日の発病状況調査結果では、発病果そう率7.2%と、昨年同時期と比較して同程度となっています(H28年6.3%、H27年45.8%)。

ただし、「豊水」では前回調査(5/16)と比較して果そう葉(葉柄)で発病が増加しています。

表 黒星病発生状況(調査日:6月15日)

品種名	調査園地数	発病園地率 (%)	発病果そう率 (%)	部位別発病率						
				果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉		新梢葉		
						葉 (%)	葉柄 (%)	葉 (%)	葉柄 (%)	枝 (%)
幸水	68	72.1	5.9	1.8	0.4	0.8	3.3	0.1	0.1	0.0
豊水	27	85.2	14.7	3.2	0.9	2.1	9.4	0.4	0.2	0.1
新高	14	7.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
あきづき	4	50.0	3.0	1.5	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0
合計・平均	113	66.4	7.2	1.9	0.4	1.0	4.3	0.1	0.1	0.0

【参考：昨年同時期の発生状況】

表 黒星病発生状況(調査日:平成28年6月13日)

品種名	調査園地数	発病園地率 (%)	発病果そう率 (%)	部位別発病率						
				果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉		新梢葉		
						葉 (%)	葉柄 (%)	葉 (%)	葉柄 (%)	枝 (%)
幸水	68	75.0	6.7	1.4	1.2	0.5	3.7	0.1	0.5	0.1
豊水	27	74.1	8.4	0.3	0.8	0.5	6.7	0.2	0.1	0.1
新高	14	42.9	1.6	0.1	0.4	0.1	0.7	0.0	0.1	0.0
あきづき	4	75.0	2.0	0.0	0.5	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0
合計・平均	113	70.8	6.3	0.9	1.0	0.4	4.0	0.1	0.3	0.1

②気象データによる感染危険度(千葉梨防除ナビより)

4月10日～6月25日の間で、感染危険度の発生回数は24回と昨年に比べ多く、特に5～6月の発生が目立ちました。5～6月の発生回数の多さが、6月の「豊水」などでの発病の増加要因と考えられます。

＜黒星病感染危険度の発生回数および指数＞

	4月	5月	6月	計
H29年	3 (1.6)	10 (2.4)	11 (2.8)	24 (2.5)
H28年	4 (3.0)	3 (5.0)	5 (3.0)	12 (3.6)

※ () 数値は、感染危険度指数(0～9までの10段階評価)

☆直近では、6月25日が感染危険日となり、潜伏期間(15日)を経て7月10日頃に果実や葉に発病する可能性があります(特に、5月初旬から発生が多い園地では注意が必要です!!)

3 これからの防除について

☆防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛けましょう

回数	散布月日	薬剤名と濃度	収穫基準 (収穫前日数)	散布量	主な対象病害虫	防除実施日
12	7月1日～3日	ダニゲッター 2,000倍 フロアブル	前日	400 ℓ	ハダニ類 ニセザビダニ	
<p>●11回目防除を6月23～24日とした園地では、防除日を6月27～29日に早めて下さい。 ●黒星病の発生が多い園地では、ユニックス顆粒水和剤47(2,000倍)を加用して下さい。 ●散布前には、殺ダニ剤の効果を十分発揮するため、必ず草刈りを実施しましょう。</p>						
13	7月5日～7日 防除日厳守!!	ストロビードライフロアブル 3,000倍 (QoI剤) オーソサイド水和剤80 1,000倍	前日 3日	300 ℓ	黒星病、輪紋病	
14	7月13日～15日 防除日厳守!!	オンリーワンフロアブル 2,000倍 (DMI剤) ベルコートフロアブル 1,500倍 アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍	前日 14日 前日	300 ℓ	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、カメムシ類 ケムシ類	
15	7月21日～23日 防除日厳守!!	ナリア WDG 2,000倍 (QoI+SDHI剤)	前日	300 ℓ	黒星病、輪紋病	

【重要項目】

- 第13～15回目の防除は、「幸水」の果実が黒星病に最も感染しやすい時期の防除となります。効果の高い防除を実践するため、必ず散布月日を守って下さい。
- 現在現れている病斑(新たな感染源)を放置すると、罹病果実の多発の原因になりますので、見つけ次第園地外で処分してください。

4 コンフューザーNの追加設置について

ナシヒメシンクイは「幸水」の収穫期間中にも発生しますが、農薬防除対応が困難なため、収穫前までにコンフューザーNを追加設置し、対策の強化を図って下さい。

	内容	注意事項
設置本数	50本/10a	<ul style="list-style-type: none"> ●ほ場の外周は有効成分濃度が薄くなるため、多めに設置する。 ●傾斜地では斜面上側を多めに設置する。 ●周辺にウメやモモがある場合には、これらを含めて設置する。
設置時期	7月下旬から8月初旬 (「幸水」の収穫前までに)	
設置間隔	約4.5m間隔(1樹あたり1～2本程度)	

5 補正摘果の基準について

- ◆「幸水」の補正摘果基準値(果実横径)の目安(満開日が4月20日の場合)

玉サイズ	6月27日	6月30日	7月3日	7月6日	7月9日	7月12日
44玉基準	34.0mm	35.8mm	37.9mm	40.3mm	42.8mm	45.5mm

- ◆「豊水」の補正摘果基準値(果実横径)の目安(満開日が4月17日の場合)

玉サイズ	7月16日	7月19日	7月22日	7月25日	7月28日	7月31日
40玉基準	43.9mm	46.2mm	48.7mm	51.3mm	53.8mm	56.4mm

※その他の玉サイズに必要な時期別の果実横径を知りたい方は、資料を配布しますので選果場にお越し下さい。

6 除草剤の使用基準について (除草剤の使用に当たっては、下記の使用基準を遵守して下さい。)

収穫前日まで使用可能	バスタ液剤(年3回以内)、ザクサ液剤(年3回以内) プリグロックスL(年5回以内)
収穫7日前まで使用可能	ラウンドアップハイロード、ラウンドアップマックスロード サンフーロン液剤、草枯らしMIC(合わせて年3回以内)